

公開・非公開の別	<input type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 部分公開 <input checked="" type="checkbox"/> 非公開
----------	--

※「2 審議の内容」における記号の説明
「○」…委員の発言
「◎」…委員の質問に対する事務局の回答

第1回「西部清掃工場更新」における

浜松市 PFI 等審査委員会会議録

- 1 開催日時 令和4年5月20日 午後1時30分から午後3時
- 2 開催場所 市役所本館5階 庁議室
- 3 出席状況 出席委員 荒井 喜久雄 技術顧問（(社)全国都市清掃会議）
佐古 猛 特任教授（静岡大学創造科学技術大学院）
高平 めぐみ 弁護士（静岡県弁護士会）
花嶋 温子 准教授（大阪産業大学）
山口 直也 教授（青山学院大学大学院）
石切山 真孝 部長（財務部）
村上 隆康 本部長（カーボンニュートラル推進事業本部）
藤田 信吾 部長（環境部）
- 事務局 環境部廃棄物処理課
石原課長、河野専門監（課長補佐）、徳田副主幹
- 4 傍聴者 非公開の為、0人
- 5 議題、内容及び結果

(1) 条例及び設置要綱の確認

浜松市 PFI 等審査委員会条例及び「西部清掃工場更新」における PFI 等審査委員会設置要綱について内容を確認。

(2) 正副委員長選出について

山口委員長及び荒井副委員長を選任。

会議の非公開について諮り、委員全員の了解を得る。

(3) 審議の内容

議題1 西部清掃工場更新基本計画 中間報告について

(意見)

○副生成物（焼却灰など）の外部委託費や売電収入はライフサイクルコストの算

定に影響を与えるため前提条件を明確にして検討すべき。

(質問)

- 現工場の処理方式であるキルン式ガス化溶融方式は今回の更新計画の対象か？
- ◎キルン式ガス化溶融方式は、現在対応できるメーカーがないため対象外となる。

- 第1回アンケートを送付したメーカー9社の選定方法は？
- ◎2000年以降に1日の処理能力が400t以上の炉を製造した実績のあるメーカーを選定した。

- 中間報告の中で全ての副生成物を外部処理するとした理由は？
- ◎最終処分場（残余年数約20年）の延命のためである。

- 更新工場では新たに汚泥を焼却するとのことだが、より高度な技術が必要にならないか？
- ◎従前の技術で処理可能ということで処理物に加えたものである。最終処分場の延命化のため、これまで埋め立てていた廃棄物を可能な範囲で更新工場にて処理することとした。

議題2 PFI手法導入可能性調査 中間報告について

(意見)

- 調査にあたっては費用の取扱いを検討して条件を明確にすることが必要。
- 副生成物の処理は、公設公営なら直接処理事業者に聞けばよいがDBOまたはBTOなら副生成物の有効利用という形で処理業者（メーカー）に提案してもらった方がよい。
- 副生成物の外部委託について、処理費を払って市外に廃棄物を押し付けていることにならないよう、最終的な行先についても考慮すべき。金額だけでなく、地域内の循環や雇用の視点も必要。
- 副生成物の外部委託については、市が決めた枠組みの中で事業者提案してもらい、最終処分まで責任を持つよう契約で縛ったうえで、契約の履行状況をモニタリングすることが必要。
- 全量有効利用を前提とするが、実際には地域特性によって、できることとできないことが出てくると思われる。
- 資源化物については移動時のCO2排出も勘案すべき。
- プラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律の施行もあり、プラスチックやカーボンニュートラルは考慮すべき課題である。ただし、プラスチック回収後の対応については、本当にCO2削減に繋がるかも含め、長期的に考えていかなければならない。
- 日本容器包装リサイクル協会がプラスチック回収のガイドラインを来年の4月

に出す。コストや環境の面から汚れたプラスチックは燃やした方がよいのではないかという議論もある。

- 西部清掃工場更新基本計画の基本方針の中に低炭素を含めた点は、全国的にみて浜松市の特徴が出ていると思われる。
- 2050年のカーボンニュートラルは世の中に対する約束だから、やるべき。少しずつ舵を切るべきである。少しずつ進めていけば課題はみえてくる。
- 事務局が今準備している方向で進めて、その中で出てきた課題を議論していけばよいのでないか。

(質問)

- 中間報告の評価としては、DBOが一番だが、BTOを排除するという事ではないということでしょうか？
- ◎そのとおりである。

- ごみ質などで念頭に置くべき浜松市独自の状況はないか？
- ◎ごみ質については特にはないが、浜松市は今後も2カ所でごみ処理をするのに安定性が求められる。

- 中間報告によると、CCUS（CO2回収・有効利用・貯留）は視野には入っているが具体的には行わないということか？
- ◎そのとおりである。

- プラスチックは焼却する方針になっているのか？
- ◎プラスチックのマテリアルリサイクルを努力義務ということで検討中。

審議の結果

議題1 西部清掃工場更新基本計画 中間報告について、確認した。

議題2 PFI手法導入可能性調査 中間報告について、確認した。

本委員会の意見を踏まえ第2回メーカーアンケートを実施する。

- 6 会議資料の名称 西部清掃工場 更新基本計画（中間報告）
西部清掃工場 PFI手法導入可能性調査報告書（中間報告）

7 発言内容記録方法 文字 / 録画 / 録音

8 会議録署名人 山口 直也
荒井 喜久雄